



インドの非従来型商標 (Non-Conventional Trademark)

現行商標法の施行規則 (Rule124) は、2017年3月6日に施行され2017年商標規則と呼ばれています。この改正は、2002年に制定された古い規則を反故にし、インドでの知的財産保護を前進させるためになされました。インド商標局は、非従来型商標の採用と登録手続きの合理化を実現してきており、今や商標登録制度の世界の最前線に立っていると行って過言ではありません。

2017年以前は、登録可能な商標に関していろいろな制限がありました。外国先進企業による知的財産権の独占を恐れたインド政府の政治的判断が制限理由の一つです。その結果、従前から非従来型商標への概念拡張は主要各国でなされていましたが、それがインドに導入されるのは2017年になりました。

この新しい商標規則は、登録を許可され得る商標の範囲を大幅に広げたことから、インドの商標システムにおける重要な転換点になったと多くの人々は考えています。

旧来から、文字、単語、ロゴ、数字、写真、記号などの常識的な商標形態の登録は認められていました。それに加え、2017年商標規則によってカラーマークの登録ルールが明確になりました。また、サウンドマーク、3Dマーク、モーションマークの登録ルールも明確になりました。

これに応じる形で、さまざまな人や企業

(その多くはインド国内) が、従来とは異なる商標を登録するアイデアを思いつきました。

たとえば、世界的に有名なホテルグループを所有するコングロマリット、THE INDIAN HOTELS COMPANY (IHC) は、ムンバイにある高級ホテル、タージマハールパレスホテルの形状を使った商標登録出願を行いました。出願は2017年商標規則に則って審査され (商標出願番号3,386,351および4,452,136)、2018年に登録されました。



写真1：タージマハールパレスホテル

もう一つの興味深い例は、ビスケット形状の商標です。インド国内最大の製菓会社の一つであるブリタニアインダストリーズは、「リトルハート」と呼ばれるビスケットの特徴的なハート形状を立体商標として出願し (出願番号4,274,917)、最近登録されました。



写真2：ハート型ビスケットの3Dマーク

また、サウンドマークとして、インド最大の自動二輪車メーカーであるHERO MOTOCORP LIMITEDが、製品オートバイの特徴的なサウンドを出願し、登録されました。



写真3：HERO MOTOCORP LIMITEDのサウンドマーク。

このように、多くのインド企業が、「オートバイの音」などの非従来型商標を登録することで、自社の商品やサービスを競合他社のものから差別化できるようになると考えています。

法改正当初は非従来型商標の出願傾向はインドの出願人に強く観察されましたが、次に規則改正が世界的に知られるようになり、最近では、外国企業もこぞって非従来型商標を出願し始めたようです。

外国企業による出願例の一つがAMAZON

TECHNOLOGIES INCの「Blue Ring」モーションマークです。このテクノロジーの巨人は、その旗艦AIデバイスの特徴的な「ブルーリング」モーションをモーションマークとして出願し（出願番号3,468,096）、2018年4月に登録されました。

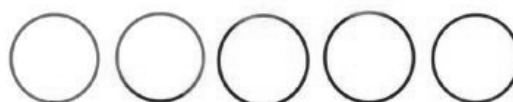


写真4：AMAZON TECHNOLOGIES INCのモーションマーク

新しい非従来型商標の登録成功の実例により、国内外を問わず様々な国の企業が自社の製品やサービスを象徴する非従来型商標を保護するためにインドの商標システムを活用しようとしているようです。

非従来型商標の登録は、技術やデザインを対象とする特許権・意匠権に加えて、企業が持つ知的財産のインドでの保護を拡充する手段になりえます。特許権や意匠権と異なり、商標権は権利期間が満了することなく、永続的に保護が得られる点も重要ポイントです。

インドにおいて、非従来型商標の登録による知的財産保護を目指す企業が増えていくことがますます期待されています。

筆者紹介



シティーJ・マルホトラ
(Kshitij Malhotra)

Global IP Indiaの創設メンバーで事務所代表です。インドの弁護士&弁理士双方の資格を持ち、特許を含む知的財産関連の法的経験が10年以上あります。専門は化学工学で、デリー弁護士会所属。首都ニューデリーに住み、英語、ヒンディー語、パンジャブ語が堪能で、日本語に関する基礎知識も有します。趣味は、ドキュメンタリーを観たり、読書したり、詩を書いたりすること。学生時代にはクリケット部員でしたが、今はたしなむ程度で、もっぱら観戦。